テレワークにおける情報セキュリティポリシーの策定方針に関する研究

Research on the policy of developing information security policy in telework

床波大貴・システム分科会・情報セキュリティ大学院大学

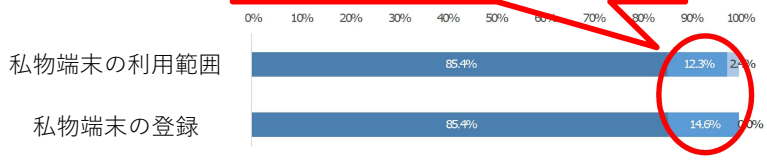
Abstract: The purpose of this research is to suggest an arrangement for formulating an information security policy for telework, taking into account the violation factors in the use of personal devices without permission. As a result of the questionnaire survey, it was found that it is desirable to take countermeasures focusing on the act of creating and editing business documents without permission. In addition, three factors were found to be unique to violations by teleworkers compared to violations by office workers. Finally, I suggested five types of arrangements for formulating information security policies in telework considering the violation factors.

1.背景と目的

・テレワークの普及
・シャドーITによるリスク
・ゼロトラストの導入拡大

➢ **ゼロトラストを適用しにくいシャドーITには，情報セキュリティポリシーの遵守徹底が重要**

しかし…　十分守られていない



目的

許可のない私物端末の利用に着目し，テレワークにおける違反要因を考慮した情報セキュリティポリシーの策定方針を提示する

2.調査

先行研究から導出した4つの違反行為，8つの違反要因に基づきアンケート実施

No.	違反行為
1	業務文書の作成・編集
2	業務データの持ち出し
3	業務データのアップロード・保存
4	業務データの共有

No.	違反要因
1	生産性を上げたい
2	ルール遵守が手間
3	セキュリティ被害に遭わない
4	セキュリティ被害は大きくない
5	会社に制限されたくない
6	何が悪いのかわからない
7	同僚も違反している
8	人に見られていない

3.結果

・許可のない**業務文書の作成・編集行為**の経験比率が最も高い
・テレワーク勤務者による違反独自の要因を3つ得た
①人に見られていないという認知
②セキュリティ被害の影響を小さく見積もる心理
③他者の期待に応えようとする気持ちの欠如

4.考察

・許可のない**業務文書の作成・編集行為**に重点的に対策をとることが望ましい
・違反要因を考慮した5種類の情報セキュリティポリシーの策定方針を提示
a：監視の強化
b：従業員教育の強化
c：コミュニケーションの強化
d：ナッジの応用
e：情報区分に応じた許容
➡メリット・デメリットがあるため，セキュリティの水準に応じ目安にできる